

2018 年度活動助成 活動実績報告書

| | |
|-------|--|
| 団体名 | 生きる力を育む研究会 |
| 活動テーマ | コミュニティ生成型防災事業LODE（ロード）をより発展させた『障がい者を理解するためのチャート図』の普及活動 |



本活動の目的は、「障がい者等の理解を促すために開発したチャート図」によるワークショップの普及を図り、コミュニティの中での障がい者等への理解促進と、対応力の増進を図ることである。

本年度の主な取り組み内容は、「障がい者家族や施設職員の生の声（危機感）ヒアリング調査」、「開発したチャート図を活用した各地区でのワークショップの実施」、「広く各地の自治体や社協に向けて取り組みを促すためのリーフレットの作成と配布とアンケートの実施」であった。その概要・結果を次に示す。

- 障がい者の家族たちに対するヒアリングからは、当団体の提案するチャート図の内容が、相当有効的を得たものであるとの評価を得た。チャート図の骨格・内容に対しては、相当程度有効なものであると確認できた。
- また、障がい者の家族や障がい者をお世話するワーカーたちの危機感や意見を調査・把握することもできた。このレベルの内容を自治体が認識した上で「災害時避難行動要支援者支援計画」に取り組むならば、現場から大幅に内容が改善されるものと確信している。
- 各地区でのワークショップでは、障がい者などへの認識・理解力が徐々に高まっていると言えるが、しかし十分な支援力があるかといえば、そこまでの道程はまだまだ長いと感じられる。各地域コミュニティにおいて「家族介護経験者」など支援力に繋がり得る人材を掘り起こす必要がある。
- 「障がい者等の理解を促すためのチャート図」を利用したワークショップの実践方法や、「市町村災害時要支援者支援計画」への生かし方等をリーフレットにまとめることができた。
- リーフレット配布に併せて、市町村自治体や社協に対するアンケート調査を実施したが、アンケートへの回答は少なかった。
- 少ないながらも自治体職員の中に、現在の「アライブづくり計画」計画への危機を持つ人が存在することがわかった。次年度からは、こうした人材を窓口突破口を開くべきであると考えている。